

一昨年の夏、ポワチエの学会に参加する機会にこの中世都市の西方 100 キロの村はずれに gîte を借りた。17 世紀の農家を大家自身が修復した石造りの美しい二階建てだった。裏手のなだらかな丘陵地には牧場が広がり、同行していたガルガンチュワとパニユルジュを足して二で割ったような同僚が赤いオモチャで挑発すると、数十頭の牛が猛然と我が家に向かって来たり、夜中ポーカーに興じれば二階の窓から侵入したコウモリがバタバタと空中を踊る姿を見て驚いたりした。しかし、それはそれ自然が豊富ということなのだ。何れにしても、我が家では以来この gîte 滞在がえらく好評で、これからのフランス滞在は必ず一週間は田舎の gîte、残りはパリということになった。

さてさて、そこで今回の南仏プロヴァンス滞在である。このしきたりに従って gîte のお世話にならないといけない。先回と同様、Gîtes de France のホームページにアクセスしてみると、これが全く物件がないのである。Vaucluse にも、Var にも Alpes-Maritimes にも。それもそのはず、夏のフランスとしては大人気の場所であるのは言うまでもないが、今回我々は 7 人の大世帯なのである。そりゃ、そうだ。こんな条件なら一年前から予約しなけりゃという声が聞こえてきそうである。しかし、いつまでも指をくわえて待っているわけにはいかない。インターネットのゴミの海に飛び込もう。手元の Villages de charme en France (Rivages) や Les plus beaux villages de France (Sélection du Reader's Digest) の中から南仏の魅惑の村を選び出す。やっぱりシトー派の三姉妹に会うためには、Ansouis、Lourmarin、Ménérbes、Roussillon、そして Gordes がねらい所だ。それら村の名と「gîte」や「location」の語を絡ませて Yahoo France! や AlataVista (フランスではこちらの方が掘り出し物が出る可能性が高い) で検索してみた。なるほど、色々出てくるではないか。これでその地域の週貸しネットワークという地図を手に入れることはできた。ここまではいい。これから、それぞれのネットワークから我々の条件に合うものを探さねばならない。まず部屋は少なくとも 3 chambres が必要だ。なぜなら今回はゴールデンメンバーなのだから。私は比較的 raisonnable な rabelaisien だが、もう一人暴れん坊の rabelaisien がいる (ここで例の同僚再び登場)。こいつはガルガンチュワのようによく食い、パニユルジュごとく悪戯好きで、伴侶のフルーツに合わせて (彼女はプロのフルーツ奏者) 嵐のようにフランス語をしゃべる。しかし、フランス語とフルーツのハーモニーだけで驚いてもらっては困る。東京からは巨漢の眼医者も合流するし、彼とともに現れるのは何と BNP Paribas なのだ。銀行と証券が一緒についてくるんだぞ。どうだ参ったか。更に言えば、パリに来るたびに病気になる何をしでかすか分からない enfant terrible までもいる。しかし、安心してほしい、犬はいない... などこの段階で紹介までする必要もなく、慎ましく 6 adults、1 enfant で、avec des animaux は NON と入力する。設備については、南仏でプールなどという贅沢は (喉から手が出てはいるが) 言わない。風呂もシャワーだけで構わない。しかし lave-vaisselle は必須だ。これがなければ女性陣が黙ってはいない。期間は無謀にも最も人気の高い 8 月 9 日から 16 日をお願いしたいが、こちらに医者や銀行員といった懐刀はいるものの、できればこの一週間を 1000 ユーロで押さえない。こんな条件をおおよそ 50 件もの登録フォームに記入したり、電子メールで送りつけたりした。早速翌日から返事が来るわくわく。そんなもん遅すぎる、人数は少なならないか、期間を変えればねえ、などとなかなか思うような返事

がない。そんな中、こんなネットワークがあるから入ってみろ、この不動産会社なら物件があるなどと嬉しい情報を寄せてくれる者もいる。藁をも掴む思いで、言われるががままに進む。とにかく物件、物件。そうこうするうち我々の条件にあうものが二件浮かび上がった。

ここからが本当の勝負である。気合いを入れてメールを書こう。直球一本ではなく、カーブやフォークも必要だろう。隙を見せることなく自己主張をして、自分を大きく見せねばならない。舐められてはいけぬ。誠実とハッタリの割合は3 : 7ぐらいでどうだろう。たかが申し込みのメール、されどここが決め手の勝負なのである。一件目は Pont du Gard の北で我々の希望する場所よりかなりはずれ、3 chambres の一つがサロン兼用というのがネックだ。しかし、家主からの返事は極めて丁寧で、日本の仏文学者と存分に話をしたいのでプロヴァンス料理を用意してお待ちいたすなどと来る。なかなか痛いところを突くではないか。我ら7人ネットで協議した結果、やはり地理と部屋条件から判断して、これは見送ろうということになり、丁重にお断り申し上げた。他の一つは Lubéron のまっただ中、La Motte d'Aigues に位置し、遠くには Sainte-Victoire 山も見えると言うではないか。

(<http://www.mapomme.net/luberon/luberonlocations.htm>) こちらもサンバな返事をくれたが、よくよく尋ねると、うちは gîte ではなくて location de maison だと言う。そんならどう違うんじゃ、と聞いてみると。次のような返事とその貸し主 Cyril Van Pevenacge 氏から来た。

Avant tout, je vous répond à propos de la différence entre gîte et location de maison. Un gîte est une location d'un bien immobilier (maison, appartement etc...) où sera présent le propriétaire. Une location de maison est louée sans le propriétaire, c'est le cas avec ma proposition.

おいおい、てえことは何かい、お宅は location de maison なら、我々がいる間あんたらは一体どうするんだい。鍵の受け渡しや、お楽しみの état de lieux だってあるだろう。それにスケジュールをみれば、我々の後にも予約が入っているのではないか。まあいいか、とにかく物件がないのだから、契約してしまえばかりに手付け金、即ち賃貸料の半額 425 ユーロを送金した。かくして、我が家の三人は 8 月 4 日に福岡から大韓航空機に乗って一路カニキュルが待ち受けるパリへと向かったのであった。

カニキュルとともに我々を待つ Van Pevenacge 邸

